

## 「小さな親切」運動本部賞

手紙の力

栃木県 赤麻小学校 六年  
毛塚 渚月

クラスに一つだけ、空いた席があります。その席の子は、昨年から体調をくずして、欠席が増えました。ある日、先生が私に、

「手紙を書いたら、わたしてあげるよ。」

と、おっしゃいました。私は、手紙を書けるうれしい気持ちと同時に、はたして私が手紙を送っても喜んでくれるだろうか、不安な気持ちになりました。

しかし、その不安は一瞬で消えました。手紙を書きたいという素直な気持ちが、不安を打ち消したのです。

さっそく、学校のできごとや趣味の話、イラストを描いて、先生にわたしました。すると数日後、友達が私の手紙を喜んでいてことを知らされました。私はうれしくなり、また手紙を書きました。こうして、私からの一方的な手紙のメッセージが続きました。

そんなある日、先生を通じてその友達から返事が届いたのです。手紙には、病気がよくなってきていること、私の手紙を読むと元気になることなどが書かれていました。私は、胸が熱くなりました。だれかに手紙をもらって、こんな気持ちになったのは初めてです。

私の手紙で元気になるのなら、何通でも書こうと思い、実際にその後も手紙を書き続けました。たまに届く返事に、ワクワクしたり、ドキドキしたりと、私は自分自身も、友達からの手紙に元気をもらっていることに気づきました。

それからしばらくたったある日、教室に友達が久しぶりに姿を見せてくれました。数カ月ぶりに会う友達の周りに、私たちみんなで駆け寄りました。そのとき、その友達が、

「なっちゃんのおかげで元気になっているよ。なっちゃんの手紙を読むと元気になるよ。」

と、私に言ってくれたのです。友達は私の手紙を大切に箱に入れて保管し、何度も読み返していると話してくれました。私はその言葉に心を打たれ、涙が出そうになりました。だれかの役に立てるなんて思っていなかった私ですが、少しは役に立てたのです。

私は、「手紙の力」を実感しました。この友情は、手紙がつないでくれたのだと思います。手紙は電話などちがいで、時を選ばず、相手をそくばくしません。また、メールとちがって、書いた人の文字や絵、紙の手触りや音が合わさり、世界でたった一通の手紙となり、温かい心も運んでくれます。手紙は心の距離を縮めてくれると大きく実感できました。

友達は、少しずつ登校できる日が増えていきます。まだ、みんなといっしょに教室で授業を受けることができず、空いた席を見ると悲しい気持ちになりますが、急がずゆっくり治してほしいです。みんな言葉には出しませんが、友達のことを心の中で大切に思っています。

28人全員そろって、授業を受けることができる日を、私たちはいつまでも待っています。